

2009年3月期 第1四半期 業績の概況

- 連結業績の状況
- 主要製品の売上高
- 開発品の状況
- 主な子会社の業績と予想

2008年7月31日

株式会社キョーリン



2009年3月期第1四半期 決算概観(連結)



09年3月期第1四半期 連結業績(実績)

<対前年>

売上面では、国内新医薬品は主要製品が順調に推移し前年を上回ったものの、一時金収入等の減少により連結売上高は208億円(前年比5.2%減)となりました。

利益面では、国内新医薬品の主要製品売上等の増加に伴い売上原価が増加すると共に、販売費及び一般管理費が増加した結果、営業利益は10億円(前年比75.6%減)、当期純利益は5億円(前年比79.2%減)となりました。

<対予想>

国内新医薬品等は順調であり、中間期予想に対して売上高は52.3%(国内新医薬品は53.4%)、営業利益は497.5%となっており、予想通り推移しています。

08年5月14日に公表した連結業績予想につきましては現時点での変更はございません。

単位: (百万円)	06年3月期 第1四半期	07年3月期 第1四半期	08年3月期 第1四半期	09年3月期 第1四半期	前年比
売上高	17,312	18,685	21,891	20,756	▲5.2%
営業利益	2,929	1,686	4,082	995	▲75.6%
経常利益	3,052	1,690	4,321	1,228	▲71.6%
当期純利益	1,942	782	2,600	540	▲79.2%

08年9月 中間期予想	前年比	09年3月期 通期予想	前年比
39,700	0.9%	90,400	11.5%
200	▲92.8%	8,000	28.0%
400	▲87.2%	8,400	26.4%
▲100	▲110.5%	4,900	123.8%

* 06年3月期第1四半期業績までは杏林製薬(株)連結の数値、
07年3月期第1四半期以降の業績、08年9月中間期及び09年3月期予想は(株)キョーリン連結の数値を示す

2009年3月期第1四半期 業績の状況(連結) *Kyorin*

健康はキョーリンの願いです。



単位:億円

	08年3月期 第1四半期 (実績)	09年3月期 第1四半期 (実績)	対前年 増減
売上高 合計	219	208	▲11
◆新医薬品	187	173	▲14
国内	175	165	▲10
海外	11	9	▲2
◆後発医薬品	13	14	+1
◆ヘルスケア	17	17	± 0
◆その他	2	3	+1
営業利益	41	10	▲31
経常利益	43	12	▲31
当期純利益	26	5	▲21

■売上高	208億円			対前年 (▲11)
●国内新医薬品	165億円	08.3(1Q)実績	09.3(1Q)実績	(▲10)
・ムコダイン		53	⇒ 50	(▲3)
・キプレス		40	⇒ 57	(+17)
・ペンタサ		22	⇒ 31	(+9)
・ウリトス		5	⇒ 2	(▲3)
・その他		一時金収入等の減少		(▲26)
●海外新医薬品	9億円			(▲2)
・ガチフロキサシン		6	⇒ 7	(+1)
*アラガン社ザイマーは順調に推移				
・その他				(▲4)
●後発医薬品	14億円			(+1)
*営業力強化により売上が伸長				
●ヘルスケア	17億円			(±0)
・ミルトン		5	⇒ 5	(±0)
・ドクタープログラム社		7	⇒ 8	(+1)
●その他	3億円			(+1)
◆原価率 : 前年比8.4ポイント上昇			(34.9%⇒43.3%)	
上昇要因: 一時金収入の減少、薬価改定(約4%)の影響、プロダクトミクス等				
◆研究開発費率: 前年比2.3ポイント上昇			(10.4%⇒12.7%)	
*23億円⇒26億円(約3億円増加)				
導入品KRP-108の契約一時金を計上等				
◆販管費率(除R&D費) : 前年比3.2ポイント上昇			(36.0%⇒39.2%)	
上昇要因: 販管費(除R&D費)はほぼ横ばいで推移したものの、売上減少により				
販管費(除R&D費)率は上昇				
■営業利益	10億円			(▲31)
◆営業利益率は4.8%と13.8ポイント低下				
■当期純利益	5億円			(▲21)

2009年3月期第1四半期 業績の状況(連結)

(単位:百万円)

	中間期		通期		第1四半期(4月~6月)					
	07年度 実績	08年度 予想	07年度 実績	08年度 予想	07年度 実績	08年度 実績	前年差額	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
売上高	39,363	39,700	81,070	90,400	21,891	20,756	▲1,135	▲5.2%	52.3%	23.0%
新医薬品	32,801	32,600	67,631	74,900	18,672	17,348	▲1,324	▲7.1%	53.2%	23.2%
国内新医薬品	30,289	30,900	63,296	70,800	17,543	16,487	▲1,056	▲6.0%	53.4%	23.3%
海外新医薬品	2,512	1,600	4,334	4,000	1,129	860	▲269	▲23.8%	53.8%	21.5%
後発医薬品	2,539	2,600	5,088	6,100	1,281	1,438	+157	12.3%	55.3%	23.6%
ヘルスケア	3,545	3,700	7,296	8,100	1,711	1,654	▲57	▲3.3%	44.7%	20.4%
その他	477	500	1,054	1,200	226	314	+88	38.9%	62.8%	26.2%
営業利益	2,788	200	6,251	8,000	4,082	995	▲3,087	▲75.6%	497.5%	12.4%
経常利益	3,118	400	6,643	8,400	4,321	1,228	▲3,093	▲71.6%	307.0%	14.6%
当期純利益	953	▲100	2,189	4,900	2,600	540	▲2,060	▲79.2%	—	11.0%

主要製品の売上高について

(単位:億円)

製品名	中間期		通期		第1四半期(4月~6月)					
	07年度実績	08年度予想	07年度実績	08年度予想	07年度実績	08年度実績	前年比	中間進捗率	通期進捗率	
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	79	95	191	216	40	57	42.0%	59.8%	26.3%
	ガチフロ(自社販売) (広範囲経口抗菌薬)	11	10	23	23	6	5	▲21.2%	49.9%	22.0%
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	90	90	212	216	53	50	▲5.5%	55.3%	23.1%
	バクシダール (広範囲経口抗菌剤)	2	2	5	4	1	1	▲19.0%	48.7%	21.4%
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害改善剤)	28	26	54	52	14	13	▲9.2%	48.4%	24.5%
	アプレース (胃炎・胃潰瘍治療剤)	9	8	18	16	5	4	▲21.4%	49.5%	24.3%
	ロカルトロール (活性型ビタミンD3製剤)	9	8	18	16	5	4	▲11.1%	49.6%	25.5%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	44	70	88	151	22	31	41.7%	44.0%	20.3%
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	5	7	7	20	5	2	▲51.3%	31.8%	11.9%
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	16	13	30	29	6	7	2.8%	48.9%	22.8%
	ノルフロキサシン (バルク)	1	1	3	2	0	1	1620.0%	86.0%	43.2%
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	10	10	19	21	5	5	▲4.2%	46.6%	22.0%

ガチフロキサシンはライセンサー向けのバルク売上とともに、ライセンサーの販売に応じたランニングロイヤルティを含んだ売上を計上いたしております(ノルフロキサシンはバルク売上のみ)

開発品一覧①(2008年7月31日現在)

Ph II ~ III						
開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	(ガルデルマ社 発売中)	塩酸アモロルフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
	Ph II (04年10月)	KRP-204 (錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が少なく、肥満を改善することが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 Ph II a終了
Ph II (07年3月)		KRP-204 (錠)	過活動膀胱 治療剤	日清製粉	β3受容体作動薬 膀胱におけるβ3受容体の活性化により膀胱を弛緩させ 蓄尿機能を高めることが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 Ph II a終了
Ph II (05年3月)	(エーザイ Ph III)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・Ph II b(07年9月)開始
	Ph II (04年6月)	KRP-101 (錠)	脂質代謝改善/ 糖尿病治療剤	自社	PPARαアゴニスト。中性脂肪等脂質代謝改善作用に 加えて、糖尿病に対する有効性が期待される	Ph II a終了
Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	

開発品一覧②(2008年7月31日現在)

POCプロジェクト						
開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPARαアゴニスト。KRP-101よりもさらにPPARα受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	
臨床試験 準備中	米国:アボット 欧州他: ムンディファーマ Ph III	KRP-108	気管支喘息 治療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で 利便性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社と ライセンス契約(08年4月)

開発品一覧③(2008年7月31日現在)

導出品の状況

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

主な子会社の業績と予想について

(単位：億円)

キョーリン製薬	08年3月期 実績	09年3月期 予想	08年3月期 第1四半期実績	09年3月期 第1四半期実績
売上高	705	778	193	180
営業利益	69	76	43	14
当期純利益	38	51	27	10

キョーリン リメディオ	08年1月期 実績	09年1月期 予想	08年1月期 第1四半期実績	09年1月期 第1四半期実績
売上高	60	77	15	17
営業利益	▲7	1	▲2	▲2
当期純利益	▲14	0	▲2	▲2

ドクタープログラム	08年1月期 実績	09年1月期 予想	08年1月期 第1四半期実績	09年1月期 第1四半期実績
売上高	34	40	7	8
営業利益	▲3	1	▲1	▲2
当期純利益	▲4	0	▲1	▲2

* キョーリン リメディオ、ドクタープログラムは1月決算、キョーリン製薬は3月決算です。